

地域の学習拠点となる場所に関する実証的研究 その2

—婦人団体が主催する講習会会場の使われ方—

日大生産工(院) ○外輪貴美 日大生産工 浅野平八

1. 研究の背景と目的

本研究は、地域住民最寄りの集会所に関する継続研究ⁱである。地域において、公民館は誰に対しても開かれた存在であるべきであるという観点から、公民館は様々な挑戦を行ってきた。地域の中で学習機会から疎外されている人々に対し積極的な実践を展開し、その中から新しい生き方や学習法が生まれることを期待してのものであった。特に地域においてその生活の大半を過ごす女性や子供に注目すると、1950年代から続く婦人学級、1960年代以降では、乳幼児を抱えた母親たちの学習支援と公民館保育の展開などが行われてきた。施設整備の面で保育室の設置がなされたのもこの時期であるⁱⁱ。現在、社会教育法による家庭教育支援事業や、男女共同参画社会基本法の制定などからも分かるように、家政教育や女性の学習は1960年代とは変化している。

そこで本稿は、公民館における地域での婦人の学習活動実態を調査し、施設空間の使われ方を明らかとすることを研究の目的とする。

2. 全国友の会の概要

婦人の生活情報月刊誌「婦人之友」ⁱⁱⁱの愛読者の会「全国友の会」(以下、友の会)がある。友の会は月刊発行数約11万部の雑誌の愛読者の会という性格を持っているとともに、地域によって社会教育団体として登録し、活動を行っている団体もある。各地友の会は、地域毎の住

民約50名規模の集まりである「方面」に分かれて活動を行う。「方面」はさらに5～10名前後の「もより会」で構成されており、「もより会」が活動の最小単位である。

全国81ヵ所ある各地域の友の会が主催する講習会活動のうち全国規模で毎年開催されるものに「家事家計講習会」(以下、「講習会」)がある^{iv}。「講習会」に利用される会場は、さまざまな名称、様態の場所が選択される。

3. 調査概要

講習会の開催場所となった施設について調査分析を行う。調査の対象、方法、項目等の概略は以下の通りである。なお、実態調査は2007年8月28～30日に行った。

1) 調査対象：福岡友の会会員(福岡県福岡市)

2) 調査対象施設：福岡友の会の2006年講習会に利用した公共施設、田隈公民館、伊都文化会館、早良市民センター、筑紫野市生涯学習センター、まどかぴあ。

3) 調査方法：a. 「福岡友の会月報 2006年12月号」から活動記録を抽出する。b. 福岡友の会の講習会リーダー^vを対象に聞き取り調査を行う。c. 講習会会場の実態調査を行う。

4) 調査項目：集会の運営方法、活動内容、施設利用の実態について調査した。

4. 月報にみる講習会活動記録

「福岡友の会月報 2006年12月号」の「講習会を終えての実務報告」から、活動記録を抽

An empirical study on the community based learning places 2

—Analysis of space usage; focused on the women group and their seminar—

Takami SOTOWA, Heihachi ASANO

出した（図1）。

○方面と会員数：福岡友の会には、東、中央、南、西、筑紫、の5つの「方面」が存在する。1方面に1～2ずつ計17の「もより会」を有し、2006年11月末の会員数合計314名である。会員数は昭和55年の約500名を最高に減少傾向にあったが、近年上向きであるという。これは、バブル期を越えて再び家庭経済への注目度が増したためと考えられる^{vi}。

○開催日時：講習会開催は、11月中である。曜日に決まりは無く、会場の予約状況によるところが大きい。開催時間が平日の午前中(10～12時)に偏るのは友の会の全国的な傾向であり、参加者の大半が主婦のためである。

○会場：友の家の他に、公共の集会施設、会員宅が利用される。集会が5～10名規模であれば「会員宅」、30～50名であれば「地域集会施設」、100～200名の場合「ホール、大会議室」が利用される。方面は地域住民で構成されているため、会員は境界の利用可能な公共の集会施設情報を熟知している。適度な規模の会場がない場合は会員宅を利用する様子からも、目的に応じて地域施設を使いこなしていることが分かる。

○入場者：会場選択の際、施設規模の目安に入場者数の予想が必要である。福岡友の会は、ま

ず会員数の2倍を入場予定数に設定し、その人数が基準になる。予定数に見合う広さの会場が確保できない場合、同会場で二日間開催して予定数を補う。会員外の入場者を集めることに積極的であり、社会への問題提起を忘れず地域に学びを還元する意識の高さが伺える。

○講演題目：「家計」と「生活学習」2種類に分類できた。「家計」の題目は、家計簿記帳の勉強会関連である。「生活学習」は「早寝早起き」「育児」「食事」に関する項目である。「生活学習」は、「方面」・「もより会」が月1～2回行う、「衣、食、住、教育」の勉強会である。そのため、講習会においても方面毎に共通題目である例が多い。講習会は家計の学習会であるとともに、婦人が日頃行う生活学習の研究成果を発表する場として大きな役割を果たしていることが分かった。

5. 福岡友の会における講習会活動

講習会は毎年、方面リーダーと最寄りリーダーを中心に運営方針が決定され、その後、会員全員で制作や準備が行われる。2006年の福岡友の会講習会も、5名のリーダーによって会の構成が決定された。この5名を対象に聞き取り調査をおこない、活動実態を明らかにした。

聞き取り調査から、講習会会場において、前項の「講演会」や「研究発表」の他にもプラス

月 日	方面	会場	入場 予定数	入場者			入会 希望	講演題目	
				会員	会員外	入場総数		家計	生活学習
2007.11.13(月)	東	ふくとびあ	40	17	20	37	0	・先ず記帳収入の中で	・暮らしましょう早寝早起き
2007.11.17(金)	東	サンレイくさや	40	20	25	45	0	・来年の我が家の予算	・早寝早起き朝ご飯
2007.11.20(月)	東	コミセンわじろ	40	18	27	45	0	・来年の我が家の予算	・早寝早起き朝ご飯
2007.11.1(水)	中央	会員宅	10	9	11	20	0		・ストレスをためない育児
2007.11.10(金)	中央	会員宅	10	4	7	11	0	・これからの暮らしに向けて	
2007.11.13(月)	中央	会員宅	10	3	10	13	0	・私たちの教育費	
2007.11.16(木)	中央	会員宅	15	7	18	25	0	・人生の縮図が見える家計簿記帳	
2007.11.17(金)	中央	会員宅	10	4	5	9	0		・子どもとともにつくる暮らし
2007.11.24(金)	中央	会員宅	10	4	9	13	0		・子どもとともにつくる暮らし
2007.11.25(土)	中央	友の家	40	38	16	54	0	・年金生活への家計	・寝る前の家を整えましょう
2007.11.29(水)	中央	田隈公民館	30	23	13	36	0	・年金生活への家計	・寝る前の家を整えましょう
2007.11.16(木)	南	友の家	110	31	40	71	1	・年金生活への家計	・寝る前の家を整えましょう
2007.11.17(金)	西	早良市民センター	80	12	39	51	0	・我が家の経済これで大丈夫？	・足りてますか？食べ過ぎていませんか？
2007.11.22(水)	西	伊都文化会館	40	8	36	44	0	・我が家の経済これで大丈夫？	・足りてますか？食べ過ぎていませんか？
2007.11.13(月)	筑紫	筑紫野市生涯学習センター	60	17	35	52	0	・ライフプランで見える我が家の教育費	
2007.11.20(水)	筑紫	まどかびあ	70	13	35	48	0	・ライフプランで見える我が家の教育費	
16会場合計			615	228	346	574	1		

図1 2006年家事家計講習会実務報告

アルファの活動が行われていることが明らかとなり、全国共通項目として①研究発表、②展示、③実演、④販売、⑤託児、が挙げられた。以上をふまえて、講習会の会場となった「田隈公民館」の事例を記す。各平面図(図 2)の(Aー講堂)が講習会に、(Bー地域団体室)が託児室に利用された。さらに、(Aー講堂)の活動の様子を(図 3)に記し、以下に詳細を記す。

①研究発表：「家計部門」と「生活学習部門」のテーマ毎に 2～3 名、計 4 名程度の発表者が選ばれて発表を行う。発表準備は約 3 ヶ月前から始まる。家計部門の発表は、実例者が実際に自分の家庭の来年度予算を立てたものを発表し、それについて議論をおこなう形式が基本である。発表は講演形式で行われ、ポスターやプロジェクターが使用されることが分かった。

②展示：子供服、お弁当・朝ご飯・常備菜例、食事の成分表など、生活学習における成果物と、発表に使用された来年度予算表などが展示される。展示形式は、パネル展示と、机上陳列である。

③実演：展示と兼ねた、「常備菜の作り方」など料理の実演会がおこなわれる場合がある。よって、実演を伴う場合には調理台のある会場が必要となる。

また、近年は会場の一角にパソコンを設置して「パソコン家計簿のつけ方講習会」が行われている事例もみられる。

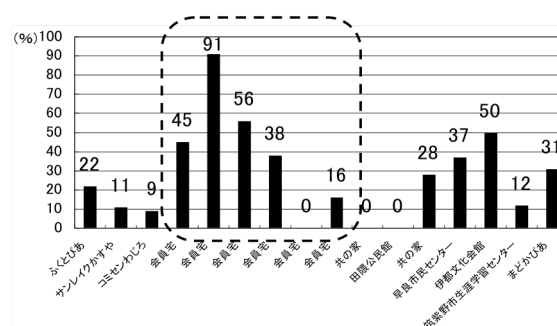
④販売：講習会と同時に、「関連書籍^{vii}の販売」と「バザー」がおこなわれることが分かった。バザーは「友愛セール」^{viii}と呼ばれ、年に一回、生活学習から生まれた制作品や食品、また中古衣料などが販売される。売り上げは、活動資金の他に、市内の福祉施設や被災地への寄付金といった、地域貢献のために利用される。

書籍の販売や友愛セールは、講習会会場と同

室内で行われ、田隈公民館においては、長机 6 つ分程度のスペースを要した。また、公民館は販売行為禁止のため、公民館が会場の場合には、友愛セールが開催されない例が増えている。

⑤託児：子供 2 名あたり会員 1 名がついて託児にあたる。プログラムに 5 分程度の「託児報告会」が設けられ、子供達の様子、おやつ、遊びや、昼寝の状況などが報告され、親が安心して学習に集中できる環境作りに配慮がされている。会場毎の託児人数については、(表 1)から「会員宅」の入場者数に対する託児率が高めであると分かる。会員宅では育児関係の講演題目のみの場合があること(図 1)、また、顔馴染みの自宅において少人数で行われる集会であれば子供を連れて行きやすいことが要因としてあげられる。

表 1 入場者総数に対する託児人数の割合



※点線内：会員宅における託児率

施設利用の面においては、保育室が設置されている施設の場合は予約利用を行い、保育室の設置が無い施設では託児以外の用途の室で代用をする。講習会会場とは別室で託児専用室の確保が望まれるため、講習会会場を含む 2 部屋を同時に必要とすることが分かった。

子供の安全を考えた家具の無い広い空間と、おもちゃを広げ活動的に遊んでも良い耐久性のある床・壁の仕上げ、昼寝のための敷物や、畳の設置が託児室に求められる要件である。

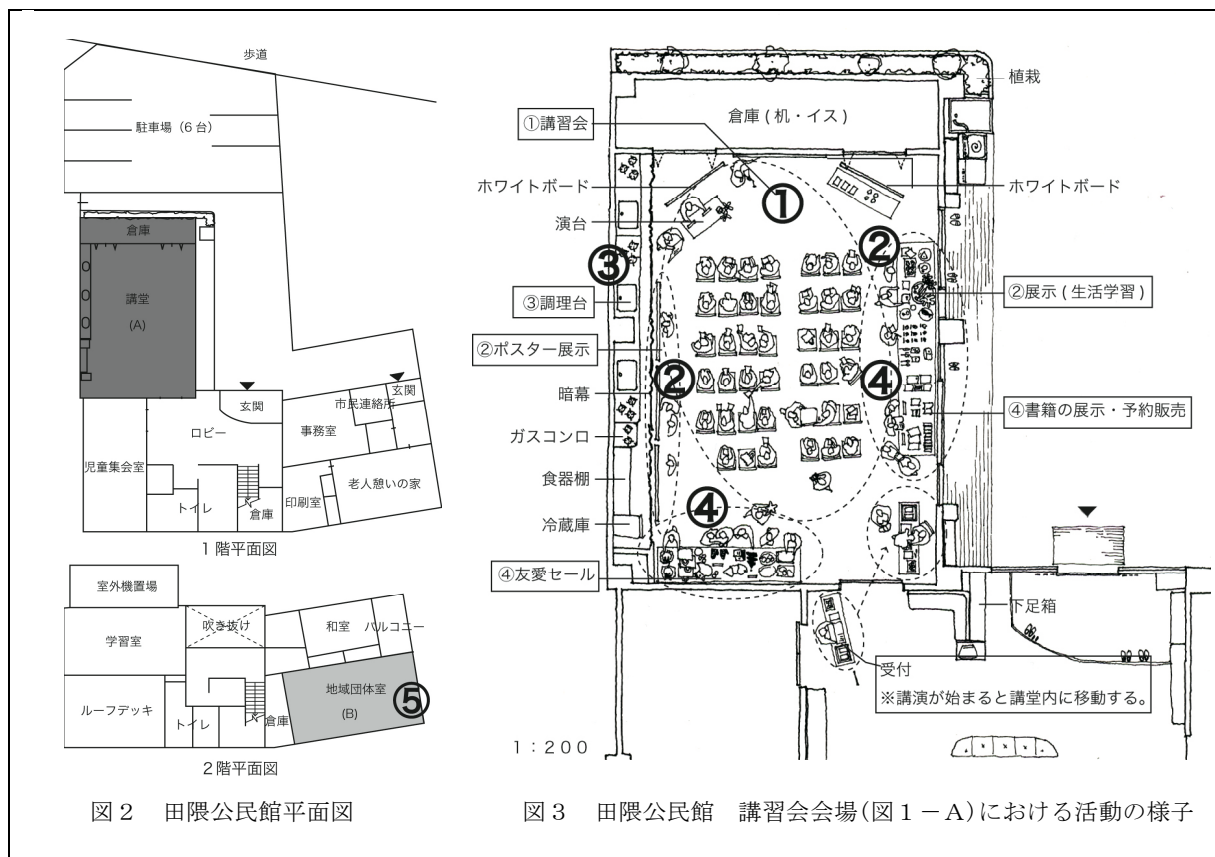


図2 田隈公民館平面図

図3 田隈公民館 講習会会場(図1-A)における活動の様子

6. 全国における講習会活動

前項から、福岡友の会の活動実態と施設空間の使われ方が明らかとなったが、地域差の有無について以下のことが分かった。

東京で年一回行われる全国大会で全国統一基準の認識を可能にしており、地域差はほぼ無いといえる。よって、転勤等で流入した新しい居住地域においても容易に参加が可能である。勉強の機会が全国一律に展開することで、地域を選ばない参加形態が保証され、婦人の継続的な学習の場の機能を果たしているといえる。

また、地域毎の友の会では会員が自主的に方面ごとの講習会を視察し合うことで常に講習会の質の向上に務めており、それが全体のレベルアップに繋がっている。

7. 結論

現在、継続的、組織的に定着している学習活動の分析から婦人団体が主催する講習会における施設空間の使われ方の詳細が分かった。

とくに講習会での主会場の使われ方、託児や体活動のモデルとして評価できる。

【参考文献】

- 1) 浅野平八：最寄り集会の場所に関する一考察-地域施設に関する実証的研究-, 第8回地域施設計画研究シンポジウム, 1990. 7
- 2) 外輪貴美：地域の学習拠点となる場所に関する実証的研究-婦人の地域集会を事例として-, 第25回地域施設計画研究シンポジウム, 2007. 7
- 3) 上田幸夫：月刊社会教育, 国土社, 2007. 10月号

【注】

- i 参考文献2) 参照。
- ii 参考文献3), 特集「荒井容子：公民館の可能性」によって論じられている。「月刊社会教育」とは1957年創刊の月刊誌であり、青年団体、女性団体、サークル、住民運動あるいは社会教育施設、社会教育行政などで活動している人を中心に読者を持つ。
- iii 婦人雑誌『婦人之友』は自由学園明日館の創立者である羽仁吉一、もと子によって1903年に創刊、現在も発行されている日本最古の婦人雑誌である。『婦人之友』の読者組織「全国友の会」は都市部を中心に現在会員数約22000。1930年設立、70年以上の歴史ある女性組織である。
- iv 毎年11月下旬に全国一斉に開催され、月刊雑誌「婦人之友」12月号に会場一覧が掲載されている。地域の婦人(会員外を含む)を対象にした、家計に関する事例報告を踏まえた講習会である。
- v 各もより会や方面の「講習会」運営責任者。
- vi 日本経済新聞：ニッポンの家計 イエコノミー1〜7, 2007.1.1〜1.8
- vii 婦人之友社の「羽仁もと子案 家計簿」は市販されている日本最古の家計簿(第一号:1905年版)とされており、現在、同社は家計関連の雑誌を多く出版している。
- viii 「友愛セール」の名付け親は羽仁もと子である。